

ご来光はいかに・・・！？厳かな山岳信仰に接したお山参詣

朝晩の涼しさに秋を感じるようになる旧暦の8月1日(旧暦の八月朔日なので、「八朔」と呼ばれます)には津軽地方の名峰として名を轟かす岩木山にて、毎年「お山参詣」が行われています。今年の「お山参詣」は9月22日の月曜日に行われ、津軽森林管理署からも4名で参加・協力してきました。

「お岩木様」と呼ばれる岩木山は、津軽地方各地から津軽富士と称されるその美しい山体の姿が見え、古くから信仰の対象となってきました。「お山参詣」は「五穀豊穰」や「家内安全」を祈願して、「お岩木様」に登拝してご来光を拝む行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

当日は岩木山8合目登山口に午前2時半に集合した後、道中の安全を確認・確保するため一般の参拝客よりも先に登り、山頂でご来光を待つという行程でした。山頂までは明かりが無く真っ暗でありヘッドライトで足元を照らしながらの道中となるため参拝



霧の中で登山道を示すサイリウムライト

客の安全確保を目的に登山道を示すサイリウムライトの設置を随時行いました。設置したサイリウムライトが霧の中にぼんやりと点々と浮かび上がる様子はなんとなく飛行場の滑走路を連想させ綺麗でした。あいにくの霧で普段より増して視界が悪いことから、足元には一層注意して登ることとし、周囲の方々と声がけをしながら登りました。

山頂に着くと、強い風に流されてくる霧の切れ目の中から冬の星座が見えていました。麓で色づくリンゴや黄金色の稲に実感する秋の訪れ(津軽地方では「出来秋」と呼ばれる農作物の収穫期にあたります)とともに冬も近づいてきていることを実感しま



岩木山山頂

した。眼下には街の明かりが見え、頭上の星空と併せてまさに素晴らしい景色でした。その後、たくさんの参拝客の皆さん(下山後の報道によれば参拝者の数は 300 人超で昨年の約 1.5 倍だったそうです)が続々と到着し、寒さの中濃くなる霧に心配の空気が漂いつつも、日の出の時刻を迎えて笛や太鼓等によるお囃子が始まり高まるムードの中、霧の合間にご来光を見られることを期待して待つ形となりました。

結局、濃く切れ目の無い霧に阻まれて残念ながらご来光を拝むことはできませんでしたが、日の出から30分が経過した6時頃によく薄くなってきた霧の中に太陽のシルエットが浮かび上がり朝日が出てきた際には歓声が上がり、感動的でした。その後の下山の際に、設置したサイリウムライトは回収しております。



残念・・・！ご来光は拝めず・・・



ようやく朝日が・・・！

今回、日本百名山の一つに数えられ、津軽地方を代表する名峰として名高い岩木山で今も続く伝統行事に参加し、実際に目にすることが出来たことは、全国各地の山々に広がる国有林野を管理する林野庁職員として非常に良い経験になったと感じています。山々の素晴らしい景色や森林浴などに代表される生態系サービスを提供し、古くから続く伝統行事の場ともなる国有林がこれからも国民の皆様にとって身近で親しんでいただける存在であり続けるよう尽力してまいります。



弘前市りんご公園から見た岩木山

津軽森林管理署 相馬森林事務所 安藤 宏明